

令和7年12月10日	資料2
R7第2回土浦地域医療構想調整会議	

土浦医療圏の救急医療提供体制について

1 協議の背景

土浦構想区域では、土浦協同病院への搬送集中の回避、そのための第一次及び第二次救急医療機関による患者の症状に応じた受け入れの役割分担が課題。

一方、2024年4月の医師の働き方改革の導入や医療機関の人員不足などにより診療体制が縮小され、救急医療提供体制へ影響を及ぼすことが懸念。

そこで、調整会議において、医療圏内の救急医療に関するデータを参考とし、各病院や消防における現状・課題について意見交換を行い、今後の方策を検討していく。

2 参考とするデータ

応需率の推移

消防本部からの救急搬送受入照会件数の推移

救急搬送受入不可の理由

救急車の現場到着時間及び病院到着時間の推移

その他、オープンデータ等による救急車受入件数、夜間・休日の受入件数等の分析結果など
(分析はR6年度より県が筑波大学へ事業委託)

土浦医療圏の救急医療提供体制に関する協議について

3 土浦医療圏医療機関及び消防本部の現状・課題（前回までの調整会議における意見交換より）

医療機関名	現状・課題
土浦協同病院	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦医療圏外（県央・県東・県西）からも幅広く受け入れているため、逆に土浦医療圏内での受け入れが減少。 ・三次救急への特化を図ろうとしているが、看護師不足が原因で救急要請を断らざるを得ないが増えている。 ・急性期を診てすぐに他院へ引き取ってもらうシステムを構築し、三次救急患者の受け皿を作る必要がある。 ・9連休かつ感染症が流行したR6～R7の年末年始は、救急受け入れが非常にひっ迫し、救急断り件数が増加。次の年末年始も9連休となるため、同様の事態に陥らないような対策が必要。
霞ヶ浦医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ・医師不在と医師の働き方改革により、R6年度より腹部救急の入院対応と夜間救急対応が困難。 ・高齢者救急などを積極的に受入れている。中には腹部疾患の患者もあり、消化器内科医の不在により対応が困難。 ・日中の受け入れ、土浦協同病院からの下り搬送、高齢者救急、在宅救急等に対応していきたい。 ・感染症の急速な拡大に備えた医療提供体制の整備（医師会を通じた協力体制の構築など）が必要。
県南病院	<ul style="list-style-type: none"> ・脳疾患を中心とした救急対応を行っており、他疾患の受け入れが困難。 ・脳疾患に関しては土浦協同病院や霞ヶ浦医療センターからの受け入れ調整を実施している。 ・夜間救急対応が困難（非常勤医師対応のため）。
神立病院	<ul style="list-style-type: none"> ・内科系疾患への対応が困難（特に夜間）。 ・整形外科疾患（全身麻酔以外）は、他院での対応が困難であれば受け入れの余力あり。
石岡第一病院	<ul style="list-style-type: none"> ・外科がないため救急受け入れできる疾患に限りがある。 ・夜間、休日は非常勤医師対応のため救急受け入れが難しいが、積極的な受け入れを呼びかけている。 ・キャパシティの都合上、同院で受け入れ後、土浦協同病院へ転送する患者が多い。 ・一方、内科医師の派遣（R6～）により救急応需率は向上している。

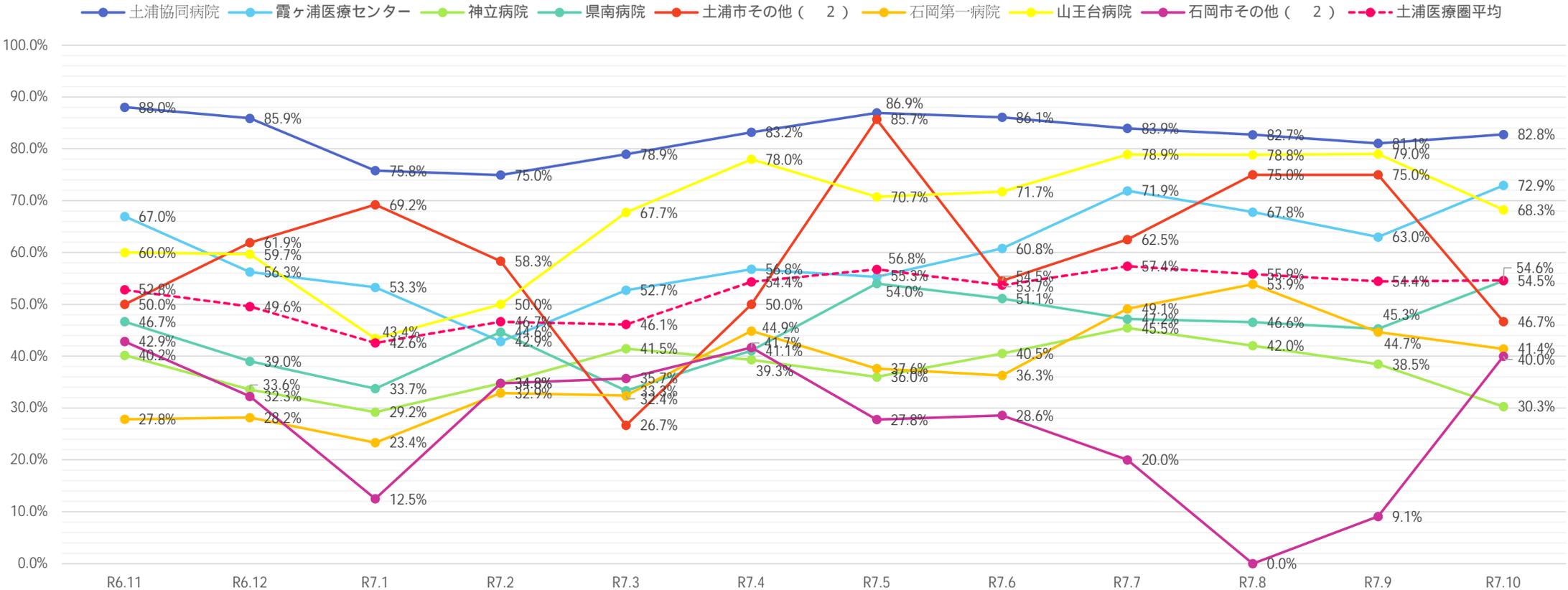
土浦医療圏の救急医療提供体制に関する協議について

3 土浦医療圏医療機関及び消防本部の現状・課題（前回までの調整会議における意見交換より）

医療機関名	現状・課題
山王台病院	<ul style="list-style-type: none">・土浦医療圏外（鹿行、茨城町、笠間市など）からの救急受け入れも実施。・R6年度末の病床拡大によって応需率が向上している。
中央大塚整形形成外科	<ul style="list-style-type: none">・救急受け入れ要請がある場合は受け入れるようにしているが、人手が足りず断ってしまうことがあるのが現状
土浦市消防本部	<ul style="list-style-type: none">・救急出動件数が増大（R5及びR6年度は約9,000件）。出動件数の増大に比例して病院への収容時間も長くなる。・土浦消防署以外の署への救急車の専従化を図り、増大する救急要請に対応中。・軽症者の救急要請に対する救急車の適正利用に関する啓発が重要。・「緊急性の低い救急搬送に係る選定療養費の徴収制度」が開始して以降、R7年5月末までの救急搬送件数は、昨年同時期比で減少している（ 241件）。

土浦医療圏内医療機関別 応需率の推移 (R6年11月～R7年10月)

・R6年11月～R7年10月までの土浦医療圏内医療機関の平均応需率は52.1%で、最も高いのは土浦協同病院の平均82.5% (グラフ外データより)。
 ・山王台病院では、石岡共立病院 (旧石岡市医師会病院) の病床統合により病床を拡大したR7年3月以降、応需率が上昇し、概ね7割台を維持。
 ・霞ヶ浦医療センターでは、R7年3月以降応需率が上昇傾向にあり、R7年6月以降は概ね6割～7割台で推移している。



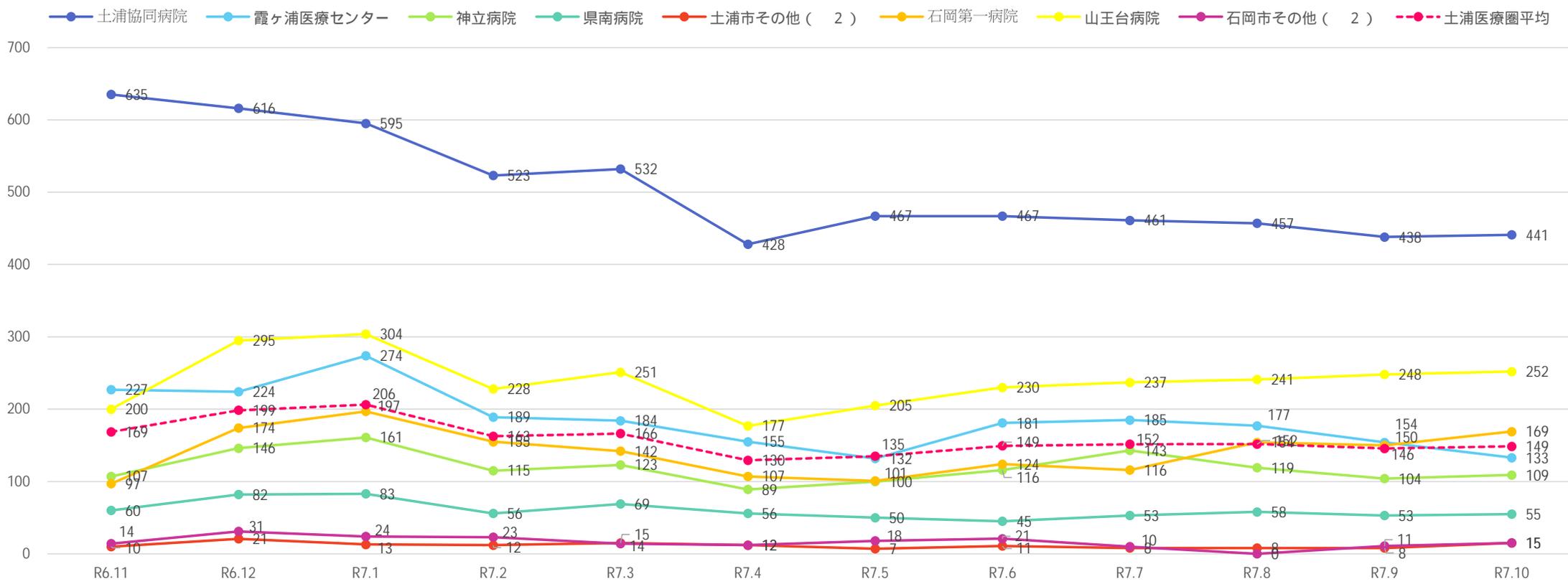
- 1 応需率とは、土浦地区メディカルコントロール協議会加入消防本部 (土浦・石岡・かすみがうら・小美玉) から、各医療機関あての救急搬送受け入れ照会件数に対する受け入れ件数 (土浦・石岡・かすみがうら・小美玉市以外の消防本部からの応需は反映されていないことに注意)
- 2 「土浦市その他」及び「石岡市その他」には、精神科医療機関や診療所などを含む。

【引用元】土浦地区メディカルコントロール協議会 「応需率と緊急度調査」

土浦医療圏内医療機関別 消防本部からの救急搬送受け入れ照会件数の推移 (R6年11月～R7年10月)

・受入照会件数は、土浦医療圏内の医療機関の中でも土浦協同病院が突出しており、直近1年間 (R6.11～R7.10) の平均件数は505件/月。一方、同院では、R7年4月以降、照会件数が減少傾向にある。

・R6年12月に「緊急性の低い救急搬送に係る選定療養費の徴収制度」が開始されて以降、医療圏の平均受入照会件数は減少傾向にある。(R5年12月～R6年10月の平均176件/月 R6年12月～R7年10月の平均159件/月)。

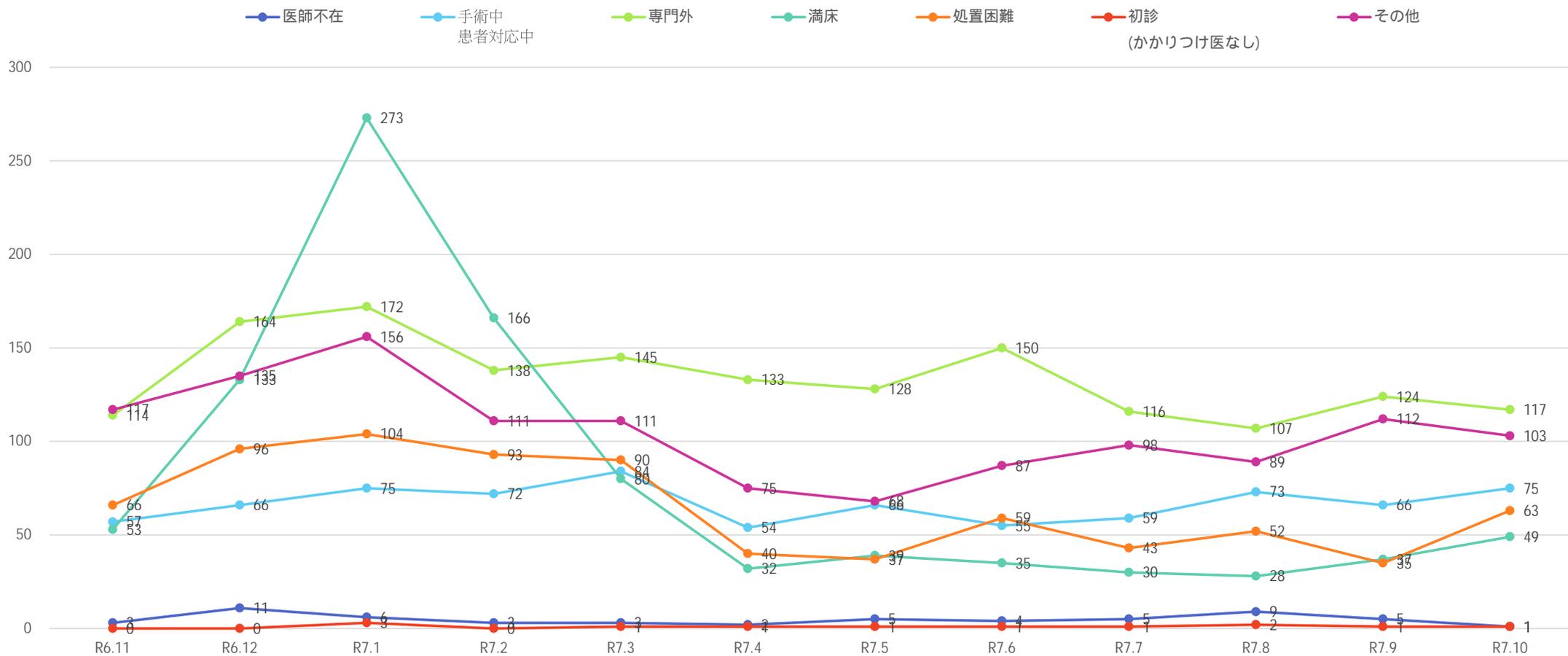


1 救急搬送受け入れ照会件数とは、土浦地区メディカルコントロール協議会加入消防本部 (土浦・石岡・かすみがうら・小美玉) から、各医療機関あての救急搬送受け入れ照会件数 (土浦・石岡・かすみがうら・小美玉市以外の消防本部からの照会件数は反映されていないことに注意)

2 「土浦市その他」及び「石岡市その他」には、精神科医療機関や診療所などを含む。 【引用元】土浦地区メディカルコントロール協議会 「応需率と緊急度調査」

土浦医療圏内全医療機関 理由別受け入れ不可件数の推移（R6年1月～R7年4月）

・R7年1月は、インフルエンザや新型コロナの流行によって「満床」を理由とする受入不可割合が突出していたが、それ以外の月は「専門外」の割合が最も高い。

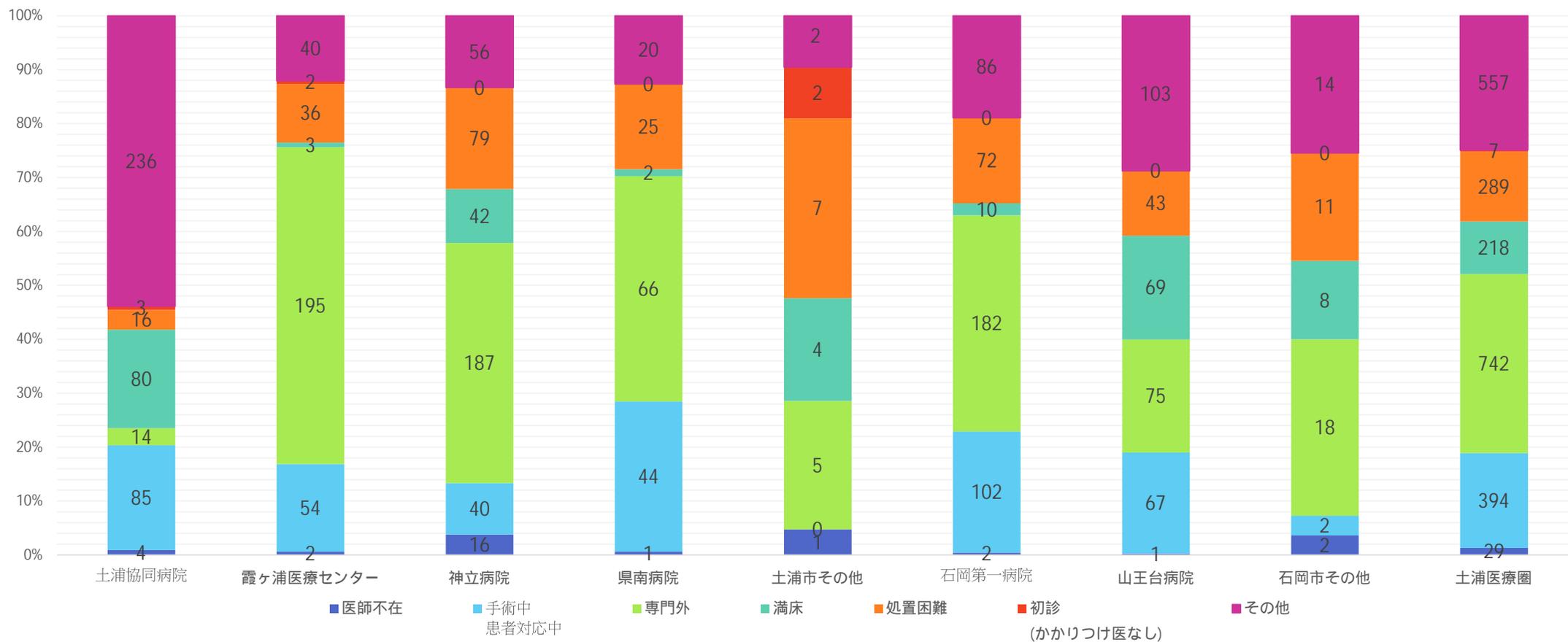


受け入れ不可理由「その他」には、医師不在ほか6項目の理由に該当しないものを分類。

【引用元】土浦地区メディカルコントロール協議会 「応需率と緊急度調査」

土浦医療圏内医療機関別 受け入れ不可理由（R7年5月～R7年10月）

- ・直近6ヶ月間の受入不可理由は、土浦医療圏全体では「専門外」（傷病者の症状から専門処置が必要であるが専門医が不在の場合）が最も多く約3割を占め、霞ヶ浦医療センターでは6割近くを占める。
- ・土浦協同病院では、「その他」の理由を除くと「満床」や「手術中」が同数程度ある。



受け入れ不可理由「その他」には、医師不在ほか6項目の理由に該当しないものを分類。

【引用元】土浦地区メディカルコントロール協議会 「応需率と緊急度調査」